

おもてなしの心を学ぶ

岡崎市立甲山中学校3年（愛知県）

小河 紗月

私が茶道を始めてから、3年目が経とうとしている。中学1年生で茶道があるこの部活に入部し、3年生になった今現在も教わることばかりだ。

今年はコロナ禍が緩和したこともあり、地域の様々な学校と交流する学生研修茶会に本校も参加させていただくことを茶道の講師の先生から伺った。そこで、3年生の部員の中からお点前をする亭主と、亭主の補佐をしたり、お菓子の提供をしたりする半東を一人ずつ選抜することになった。私はお茶を点てるのが好きで、亭主をやりたいと思った。すると、「お点前（亭主）は紗月で」

と顧問の先生から告げられた。嬉しかった。私は意気込んで稽古に取り掛かった。

しかし、いざお点前の稽古をしてみると、わからないことだらけだった。棗や茶杓の清め方や茶筌通しの仕方はわかるが、順序がわからない。次に何をすればいいのかがわからなかった。さらに畳の上を歩く歩幅や歩数、今までの稽古では使っていなかった鉄瓶や建水の使い方などもわからず、講師の先生の手助け無しではとてもできないような状態だった。このままではまずい。家に帰ってから動作や手順を一所懸命に覚えた。次の部活の日、毎日お点前を復習し続けた私は次に何の動作をするのか、茶道具をどのように使うのかがわかるようになった。講師の先生の手助けもほぼ無しでお点前をすることができたが、何かが足りないような気がした。その時、講師の先生がおっしゃっていたことを思い出した。「来ていただいたお客様に満足して帰っていただくために」、何が足りないのかが分かった。私にはお客様をおもてなししようという心がないのだ。自分のことで手一杯になってしまって、ひとつひとつのお点前の所作を粛々と進めていた。茶会にお越しくださったみなさまに対するおもてなしや感謝の心を忘れていた。

それから私は、稽古のときでもお客様に対するおもてなしの気持ちを持ってお点前を行うようになった。すると、今まで覚えるのに苦労した茶道の所作を安易に覚えることができた。お点前の一挙手一投足には相手への配慮や気配りがある。おもてなしの心を持ち、改めてこのことを実感した。

私が茶道を学んで、一番心に残ったことはそのことだと思う。今まではお客としてお菓子をいただき、お茶を飲んで一息つける時間が好きだった。しかし、その安らぐ時間を提供する側になったとき、その大変さを知った。ただお茶を点てるのが楽しいという自己完結ではなく、相手にも茶道を楽しんでいただくこと、快い時間を過ごしていただくことが大切なんだと学んだ。この部活に入部したからこそ学べたことを、これからの生活にも活かしていきたい。